

昨年のがん検診で、がん・がん疑いの診断となった人は21人！

～がんは、早期発見すれば

90%以上が治ります！～



検診のメリット	デメリット
・早期発見・早期治療による救命、がん以外の病気の発見と治療	・診断が100%正確とは限らない、不必要的検査や治療につながる場合がある。 ・検査で体に負担がかかる場合がある。

- ※ 詳細は、日本対がん協会のHP「がん検診のメリット・デメリット」で検索してください。
- ※ 各がん検診の実施医療機関は、申込者に別途、詳細を案内します。
- ※ 検診協力医療機関での実施になります。
(医療機関は、ご希望に添えない場合があります)



●がん検診の種類と対象者等

検診の種類 対象者	大腸がん (便潜血)	肺がん (胸部X線)	胃がん:どちらか一方の検査		乳がん (マンモグラフィー)	子宮頸がん (細胞診)
	(バリウム)	(胃カメラ)				
20~39歳	—	—	—	—	—	—
40~49歳	集団健診	集団健診	集団健診	—	集団健診 または 個別検診	集団健診 または 個別検診
50歳以上		※喀痰検査		個別検診		
備考	・1年に1回受診可能 ・集団健診(4月~5月) ※喀痰検査は、重喫煙者のみ対象		・2年に1回受診可能:年度末偶数年齢の方 ・各がん集団健診(4月~5月) ・乳がん・子宮頸がん個別検診(5月~12月) ・胃がん個別検診(6月~12月)			



<注意事項> 以下の方は検査が受けられません。



●肺がん検診: 6カ月以内に血痰が出た方、妊娠中の方

●胃がん検診(バリウム): 食道・胃・十二指腸の手術(腹腔鏡を含む)で切除された方、消化管を治療中の方、バリウムや下剤にアレルギー有、日常的に強度の便秘や飲食時にむせる、妊娠中の方

●胃がん検診(胃カメラ): 胃全摘手術の既往有、胃疾患(胃がん・胃潰瘍)治療中、妊娠中の方

注) 抗血栓薬(血液をさらさらにする薬)を内服中の方は主治医にご相談ください

●乳がん検診: 自覚症状有、妊娠中、ペースメーカー装着、乳房形成や豊胸術有、胸部の皮下に医療器具の埋込の方